

メッセージ

「第18回「核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい」が開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

ヒロシマは、人類最初の被爆体験を原点に、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けてきました。しかし、核即応態勢はそのままに膨大な量の核兵器が備蓄・配備され、核拡散も加速するなど、人類は今なお滅亡の危機に瀕しています。

このため、広島市は、世界の1700を超える都市が加盟する平和市長会議とともに、2020年までの核兵器廃絶を目指す「2020ビジョン」に取り組んでおり、核保有国に対し核軍縮に向けた「誠実な交渉義務」を果たすよう求めるキャンペーン、都市を核攻撃の目標にしないよう求めるプロジェクトなど、様々な活動を展開しています。

また、被爆の記憶が世界的に薄れつつある中、全米101都市での原爆展の開催や、国内外の大学への「広島・長崎講座」の普及など、広島・長崎の被爆体験を世界と共有するための努力を続けています。

21世紀は、市民の力で問題を解決できる時代です。そうした意味から、平和を願う「第18回「核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい」」が開催されますことは誠に意義深く、その取組に対し深く敬意を表します。今後とも、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現のため、私たちとともに力を尽くし、行動して下さることを心から期待いたします。

終わりに、「第18回「核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい」」の御成功と御参加の皆様の今後ますますの御健勝と御多幸をお祈りいたします。

平成19年（2007年）9月23日

広島市長 秋葉 忠利